

日刊 動労千葉

85. 9. 27

No. 2049

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)(公衆)〇四七二(二二)七二〇七

出向強要・不当処分・差別・分断攻撃許さぬ!!

全組合員一丸となって—— 館山支部 通信員・発

九月二十一日、第三回館山支部委員会が、水野副委員長を来賓に迎え開かれた。笹生支部長はあいさつの中で「動労千葉は組織をかけた闘いとして、十一月第一波ストライキを中心に、答申粉碎の闘いに起つ、十月からはじまる五千万人署名、各地区集会、総決起集会を成功させ、全組合員が一丸となって反撃に起とう」と述べ、全体で確認した。

質疑では「点呼時、乗務中における出向強要など当局の反動的姿勢に対し一人一人が反撃しよう」「個人個人が意識をもちあげ、十一月ストへの不安感を一掃し、断固闘いぬくためがんばろう」など活発な意見が出された。

集会は、第十回大会方針を確認するとともに、日常的職場抵抗の強化の中で、一人一人の飛躍をかちとり、断固闘いに決起することを確認し終了した。

反動取締に怒りが爆発—— 千葉転支部 通信員・発

国鉄当局は職場規律と称し、あらゆる反動攻撃をかけてきているが九月十七日、区当局は支部組合員に対し訓告十四、厳重注意八二名という、他の職場には見られない大量不当処分を通告してきた。

さらに、当局はこの間、乗務前に一口諮問を行い、答えない者には×をつけるという反動攻撃を行っている。これは、分割・民営化にむけ、組合員を選別、分断するものにほかならない。

定例会に参加した組合員の怒りは爆発したのは当然である。

「処分の理由を明らかにしろ」という組合員の要求に対し、反動・川名区長は「ここは私の部屋だ。出て行け」「一人

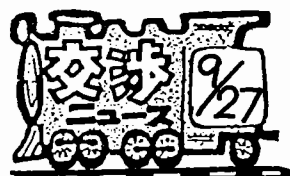
つつなら話す」の一点ばり、ついには局に電話し「現認する」とわめきちらした。首席助役にあつては「厳重注意は処分ではない」などとほざいている。

われわれは、処分を居直りながら一言も説明できない区当局に怒りを叩きつけ、徹底的に闘いぬくことを通告した。

区当局のこの間の反動性は目に余るのである。少々の遅刻のチェック、二分の出場遅延に対する乗務停止、駅通対者の差しかえに対する差別等々、カサにかかって攻めてきている。われわれは、これ以上許すことはできない。全組合員が火の玉となり、十一月ストライキに断固決起することを誓うものである。

動労千葉第十回定期大会における「分割・民営化」十万人首切り粉碎、今秋～来年にかけて、組織の総力をかけて数波のストライキをもって断固実力決起し、三〇万国鉄労働者の力で中曽根「監理委」当局「動労『本部』」革マルらを打倒する」との戦闘方針をうけ、今、全職場で一斉に、大会報告・ワッペン不当処分追及・スト体制構築等にむけた支部執行委員会「職場集会」対当局抗議闘争等がくりひろげられている。
各支部通信員からの報告を掲載する。

九月二〇日、千葉運転区支部乗務員分科会の定例会が組合員の圧倒的気迫でかちとられ、不当処分に対する現場長抗議行動を行った。



85年度新賃金 決まる

九月二七日、85年度新賃金配分交渉が妥結した。詳細は『交渉ニュース・No.4』(9月28日付)を参照されたい。

●精算払い、十月二五日以降準備でき次第。